と新聞紙に包み、「省吾、学校に持って行きなさい」と。登校して先生に渡すと、クラスの生徒たちの前で、牛乳瓶のような器にさっと生けたのです。その途端、バラの香りが教室中に広がり、美しさのオーラに皆がうっとりしました。その瞬間、母の思いが理解でき、深い愛情を感じました。

高野　いつうかがっても、素敵なお話です。そんな、たくましさをもつドヌーヴは、世界中で知らない人がいないほどのフランスの女優として、今も現役。その上、世界を良くするために、自分の知名度が生かされればという姿勢で、社会的意識が高く立派です。

假屋崎　ジェーン・バーキンも、震災後すぐに来日してくれましたよね。そういう力は女優だからこそ。どんどん発揮していただきたいです。

高野　フランスでは映画に対する尊敬の気持ちが強いですから、力のある女性たちは何かしら映画に貢献しようという気持ちも強い。ファッション・デザイナーでは、アニエス・ベーとか、古くは、ココ・シャネルも多くの映画監督に協力を惜しみませんでした。ベネチア映画祭で大賞を取ったアラン・レネ監督の『去年マリエンバードで』は、彼女が作ったソワレのためのドレスなくしては成立しない作品でしたもの。ジャンヌ・モローが主演の『恋人たち』での愛を交わすシーンでは、全裸にココ・シャネル流重連のパールだけを着けて……。假屋崎さんがお好きなヴィスコンティ監督も、彼女がルノワール監督に紹介して、映画監督への道を開いたそうですよ。彼女はそれを自分からは言わなかった奥ゆかしさが、エレガントです。

假屋崎　ジャン・コクトーもさまざまなジャンルのアーティストと交流をもち、新人を発掘し、自分自身も映画の世界に進出し、歴史に残る作品をコラボレーションしながら生み出し続けましたね。

高野　コクトーに支援したのもココ・シャネルです。フランス女優は、このところのアカデミー賞キラーですよね。『アーティスト』の主演女優ベレニス・ベジョ、ウディ・アレン監督が『ミッドナイト・イン・パリ』でミューズにしたマリオン・コティヤールたち。

假屋崎　『アーティスト』は発想力、表現力、すべてにおいて完璧でしたね。つい先日、ロンドンでミュージカル『雨に唄えば』を見てきました。映画で見たのは40年も前ですが、日本に戻ってきて改めて見直すと、10代のころに突然タイムスリップしたようで時空を超えるほど。映画の力を改めて知りました。

高野　そうそう、旬の美男俳優で、絶対のおススメがあります。マイケル・ファスベンダーというドイツの男優。お好きそうですよ。リドリー・スコット監督の『プロメテウス』でにわかに注目。アンドロイド役で、映画の中で、彼が『アラビアのロレンス』のピーター・オトゥールを真似て、人間の美しい男とはこういうものだというのを懸命に習得しようとする。オトゥールそっくりの美形です。うれしいのは、いわゆる過去の作品に対するオマージュとしての場面。こういうシーンを発見するときにこそ、ああ生きててよかった——と、思わされますね。

假屋崎　映画を通して自分自身の人生も輝かせることができるんですよ。今からでも絶対遅くないですね。これからの人生、まだまだ捨てたもんじゃないです。ひと花もふた花も咲かせ続けなくてはね。

高野　自分は今まで、無駄に映画を見てきていないんだって確証を得て、そんなちょっとしたことなのに、うれしくなって自分を褒めてあげたくなって。

假屋崎　そういう自分だけの喜びを、映画を見た数が多ければ多いほど、後で楽しめるわけでしょう。

高野　先日、70歳の女性が、『死刑台のエレベーター』を銀座みゆき座でリアルタイムで見たという話をしていて、思わず、あなたは貴重な生き証人だから、どうか長生きしてくださいとお願いしてしまいました（笑）。それにしても、最近はわかりやすい映画が歓迎され、ちょっとわからないと、途中で劇場から出ていく観客を見かけます。悲しいですね。假屋崎さんの作品だって、わからない謎の部分があって惹きつけられる。なぜ、ここにかぼちゃを使うのかな、とか？　見る者にすごく考えさせる映画が減っては困るんです。

假屋崎　そんな、かぼちゃも使う私のライフワークとなっているのが、歴史的建築物に挑むシリーズの展覧会です。いよいよ目黒雅叙園百段階段で、皆さまもご覧になることができますので、ぜひおいでいただきたいと思います。本当に、映画談議は話が尽きませんね。とにかく、感動してこその人生。花は心のビタミン。映画は人生の親友であり、薬でもありますね。

高野　フランスの輝いている女性たちは、映画への支援を惜しみません。

●高野さんの映画の仕事。

編著書『映画配給プロデューサーになる！』（メタローグ）をまとめた高野さんは、映画プロデューサーとしてカンヌ映画祭には毎年参加。毎回アーティスティックな公式パンフレット、今年は没後50年になるマリリン・モンローが表紙。昨年は、日本の震災に映画祭が全面支援。そのはがきとバッジは宝物だそう。